

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人お茶の水女子大学

## 1 全体評価

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げ、全ての女性がその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障されて、自身の学びを深化させ、自由に自己の資質能力を開発させる支援をすることを目指している。第3期中期目標期間においては、国境を越えた研究と教育文化の創造と、夢の実現を支援するための学びの場を提供し、時代と社会の要請に応じてグローバルに活躍する女性リーダーを育成するとともに、女性の生涯にわたる生き方のモデルを提供すること、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて豊かで自由かつ公正な社会の実現に寄与すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、基金を活用して「国際交流留学生プラザ」を建設するとともに、日本の女子大学として初めてトランスジェンダー学生(MTF=Male to Female)を受け入れる方針を表明するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 「ヒューマンライフイノベーション研究所」では、企業等から委託を受け、企業人・学生・大学人を有機的に結びつけ、インキュベーターとして活用することで、企業課題を解決し、状況を変化させることができる力を持つ「チェンジ・メイカー」学生を実践的に育成することを目的として、「Ocha-Solution Program」を開講している。本プログラムでは「企業が対価を払っても解決したい真に価値ある課題」を解決することで成果を還元することを目指し、産業から招聘した講師による授業や企業等へのインターンシップを行っており、平成30年度は（株）IHIと富士通（株）と連携して実施している。（ユニット「健康科学・人間発達科学分野における国際的研究拠点形成」に関する取組）
- 中学生や高校生が教科指導の内容だけではなく、新しい数学や数学の広がりを実感でき、「数学的な見方・考え方」を働かせ数学を楽しめる副教材を奈良女子大学と共同して発行している。本副教材は、大学における数学研究や、結び目理論への位相幾何学の考え方を通じて、数学そのものが持っている面白さを感じ、授業で学んでいる数学との関連や違い、広がりを知って更に自ら探究していくことを狙いとしている。（ユニット「大学の枠を越えた科学技術創造立国の中核となる理工系女性リーダー育成拠点の構築」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 若手女性研究者育成・支援のための新制度の設計

国際的に活躍が期待される若手研究者を育成するため、大学院生への渡航費や論文投稿に関する全学的な支援を新たな試みとして進めており、具体的には、国際学会において発表するための渡航費等を補助する「お茶の水女子大学大学院生国際学会発表支援制度」（6名、合計約120万円）及び論文投稿に必要な経費を補助する「お茶の水女子大学論文投稿支援制度」（3名、合計約50万円）による支援を開始している。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

**○ キャンパスマスタープラン等に基づく計画的な施設整備**

国際交流・地域貢献・世代間交流の3つの目的を持つ集いの場として、これからの大学の新たなシンボルとなる「国際交流留学生プラザ」を正門横に開設し、海外からの留学生、研究者と学生、附属学校の児童・生徒や地域住民が共に学ぶ拠点として活用する体制を構築している。自然豊かなキャンパスとの調和を図った設計にするとともに、建設資金については、特定基金「未来開拓基金」を立ち上げ、同窓生、教職員等から寄せられた多額の寄附金を活用している。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 学士・修士一貫教育トラックの実施

学士課程・修士課程教育カリキュラムを継ぎ目なく履修し、留学やインターンシップ等の学修計画に基づく教育指導を受けることにより、リーダーに必要とされる資質能力の開発を支援することを目的とした「学士・修士一貫教育トラック」に、「新トラック入試」を導入している。本入試を経て、8名（生命科学コース、物理科学コースなど）の学生が博士前期課程に進学している。

### ○ 多様な学生に対する取組

平成30年7月に、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」という大学のミッションに基づき、日本の女子大学として初めてトランスジェンダー学生（MTF=Male to Female）を受け入れる方針を表明している。受入れ準備プロジェクトチームを設置し、「トランスジェンダー学生受入れに関する規則」の制定、出願資格マニュアル、対応ガイドラインの作成等、受入れに向けた準備を適切に進めている。

### ○ 「附属学校園教材・論文データベース」の開発

附属学校の機能強化の一環として、「国立大学法人お茶の水女子大学附属学校園教材・論文データベース」を開発し、ウェブサイトで公開している。データベースは、大学と附属学校が開発・実践してきた教育コンテンツを、全国の教育機関での活用に供し、学校教育の全国的な質の向上に資することを目的としており、平成31年4月現在、300件の教育コンテンツを掲載している。データベースには他校での実践事例、実践者のコメントも併せて掲載し、多様な学校によるコンテンツが集まることで内容の更なる充実を図り、成果が広く教育に応用されることを狙いとしている。